

2017年島前合宿 レポート

私自身は昨年も国内研修制度を利用し、島前合宿に参加させていただきましたが、今年は自分たちで作る島前合宿でした。去年は、先輩方が作り上げてくださった島前合宿についていき、学ぶというものでしたが、今年は自分たちが本当に学びたいこと、やりたいことを考え、企画し、実行しました。

1日目は、夜行バスと船を乗り継ぎ、島に行きました。島についてまず宿に荷物を置きに行きました。今年の宿は、海士町の「ささめ雪」という、以前までスナックとして使われていた場所をお借りして泊まりました。

そのあと、海士町の「キンニャモニャセンター」という観光案内所などがある場所でバーベキューをしました。海士町出身である同級生の沼田啓佑くんのご両親が野菜を分けてくださり、その野菜を焼いて食べました。とても美味しかったし、楽しかったです。1日目にし、本当に島の人のあたたかさを実感しました。バーベキューの準備の間に、海にも入れました。海士町の海はとても綺麗で感動しました。

二日目は観光の日です。私は知夫町に行きました。知夫で有名な展望台に行って写真を撮ったり、自然食レストラン「DONA」に行ってハンバーグを食べました。とても美味しかったです。知夫町の海はとても綺麗で、観光案内所もとても充実していました。町の方は私たち観光客に声をかけてくれたりしてくれて、丁寧な対応をしていただきました。とても嬉しかったのと同時に、観光に対する熱意を感じました。その夜は、みんなでカレーを作って食べました。沼田くんの家の野菜を使って作りました。二日目の夜は、次の日の実習のための準備をしました。

三日目は、実習の日でした。午前中は西ノ島町へ内航船で行き、西ノ島町唯一の中学校である、西ノ島中学校に出前授業に行きました。中学校には昨年も訪問し、大変お世話になっている先生と再会できてとても嬉しかったです。瀬前授業は、島の中学三年生に、生き方を教えるという内容でした。西ノ島町には中学校までしかなく、島前全体でも高校までしかありません。大学が無いので、子供達は大学がどんな場所で、どんなところで、どんなことをするのかを知りません。自分の大学生活と生き方を踏まえ、大学生について教えたり、今後の進路のアドバイスをしました。これは去年と同じような内容で、昨年うまく生徒と交流ができなかったり、自分のことを伝えるのが難しかったりしたので、今年は去年の反省を生かしてやりました。昨年もそうでしたが、生徒の中には人と馴染めない、不登校の経験がある、心の状態が不安定、身体に障がいがある、家庭状況が不安定な子どももいます。そういった子をしっかりと把握し、どのように接し、教えるかを考え、学校の中にはいろんな子どもが

いるというように、社会に出てからもいろんな人がいる。その中でどう関わっていくかを教えることができました。お昼には交流給食として一緒に給食を食べました。給食の準備など、みんなで協力してやっていますすごいと思いました。お昼休みには、子供たちと体育館で遊んだり、学校の中を案内してもらいました。西ノ島中学校は校舎を新しくしたばかりで、とても綺麗でバリアフリーの面でもかなり優れていました。そのあとの反省会で、出前授業の感想を同然合宿のメンバー全員で言い合ったのですが、「障がいがあると事前に言われていた子供がいて、最初は警戒心があった。しかし実際に会ってみると普通の子供と何ら変わらない。警戒心を持ったり、偏見を持っていた自分を恥じたい」といった人がいました。私も同じで、「障がいがあるんだ。気をつけよう」と思っていました。障がいがある子供と関わり、偏見を持つことは罪なことなんだと実感しました。

午後には、西ノ島町の総合福祉施設「シオンの園」に訪問に行きました。シオンの園には、保育園、高齢者老人ホーム、障がい者支援施設の三つがあり、それぞれが独立しながら運営されています。私たちは保育、高齢者、障がい者の分野に分かれて、施設見学、交流、質問をしたりして学びました。私は高齢者のチームで、高齢者施設に行きました。高齢者の方は毎日この施設に通っていて、基本的には泊まったりはしません。この施設は定員が10人と少なく設定しています。これは、利用者さんたちが、少ない人数でより密に関わり、職員もひとりひとりのことをより多く見ることができて、利用者さんの家族とも密に関わることができることを目的としているからだそうです。実際に、高齢者たちはみんな仲が良さそうで、一つのテーブルで話をしていました。他の施設だと、多くのひとが利用するので、何個もテーブルがあり固定されてしまうので深い関わりが持てないという難点があります。シオンの園は、そういうことをとても大切にしています。また、島の高齢者は増加しているが、高齢者施設の利用者は年々少なくなっているそうです。職員さんの数も少なく、職員不足が深刻になっているそうです。利用者さんたちとの交流で、いつもやっているゲームを一緒にやらせていただきました。積み木をみんなで順番に重ねていくものや、トランプのカードを順番に引き、ジョーカーを出したら手札を出すというゲームをしたりしました。これらのゲームは利用者さんと職員さんが一緒に考えたゲームで、脳にいいんだそうです。利用者さんは全員が西ノ島町出身というわけではなく、結婚して嫁いできた人や、島に住みたいという思いから本土から移住してきた人など様々でした。島の人からすると、若者には一度本土に行って学んで、そこから島に帰ってきてほしいという思いを抱いているんだそうです。確かに、ずっと島だけに縛られてしまっていると、そこだけの経験しかなく、大きい視野が持てなくなってしまうのかなと思いました。シオンの園訪問後の反省会では、障害者施設チームと保育チームの感想も聞きましたが、やはり職員の人手不足、利用者の減少が問題となって

いるんだそうです。その日の夜は、島で釣った魚をさばいて食べました。島には豊富な海鮮がたくさんあり、とても美味しかったです。

四日目は、キンニャモニャ祭りという海士町で一番のお祭りに参加しました。昨年も参加しましたが、今年は午前中から行って、海で遊んだ後に祭りの開会式から参加しました。開会式では、地元の小学校の和太鼓クラブの子供達が和太鼓を披露したり、民謡をやっている方が歌ったりして、とても賑わっていました。そのあとは踊りを踊流のですが、昨年に引き続き参加し、一緒に躍らせていただきました。地域の方からたくさん声をかけていただき、うれしかったです。西ノ島中学校でお世話になった子供たちも祭りに来ていて、またお話しすることもできました。「踊りが良かったよ!」と言ってくれて、とても嬉しかったです。そのあとは花火大会があり、花火を見て楽しみました。そのあとは歩いて帰ろうと思ったのですが、無料の送迎バスがありそれで帰りました。島は祭りに参加してくれた住民の後のこともしっかり考えていたんだなと思いました。

5日目は帰宅です。船に乗り、夜行バスを乗り継ぎ帰りました。島前合宿で学んだことは本当に沢山あります。一番は、島の地域社会形成です。島は人口が少なくコミュニティも狭いですが、それを生かしている部分が沢山あります。そして島の人たちのあたたかさに感動しました。本当に行ってよかったです。多くのことを学んだので、これからの勉強に生かしていきたいです。